

第103回  
**全国高校野球**  
 青森大会  
 第4日

# 光星貫禄 コールド勝ち

## 東奥学 攻守精彩欠く

【評】八学光星は1点は初めて。特に狙い球は方向への打球を徹底し、「ティンク」ができた。リードの二回、伊藤、久守の適時打などで4点を奪い、三回には深野、伊藤、横山、久守の4連続長短打でさらに4点を追加、試合を決めた。森、洗平、小室の投手陣は相手打線に絞らせず、無得点に封じた。

東奥学園は、野手の失策や主戦滝本のボーク2個などで序盤に大量失点を喫する苦しい展開。打線もつながりを欠き、1点が遠かった。

◆3打数3安打の活躍で勝利に貢献した八学光星の久守（3年）初戦をコールド勝ちし、チームに勢いをついた。4番を任せられたのは公式戦で



は初めて。特に狙い球は方向への打球を徹底し、「ティンク」ができた。絞っていないが、右目標とする「つなぐバット」

◆先発し3回9失点も

2安打を放つ意地を見せた東奥学園の滝本（2年）は、光星打線が強いながらも、光星打線が強く、自分の打撃は力強く前に飛ばそうと意識した。（チーム唯一の長打の二塁打は）芯で捉えたわけではないが伸びてくれた。光星と戦った経験を生かし、来年に向けて成長したい。

【東奥学園―八学光星】3回裏、八学光星2死一塁、久守の右越え二塁打で9―0とリード―八学市長根公園